

其妻薛媛善書画、妙属文。知楚材不念
 糟糠之情、别倚糸蘿之託、对鏡自
 其形、并詩四韻以寄之。

楚材得妻真及詩懷、惡遽有雋不疑之讓。

夫婦遂偕老焉。里語曰、

當時婦棄夫、今日夫離婦。若不逞丹青、空

房応独守。

(范攄「雲溪友議」による)

問 傍線部A「若不逞丹青、空房応独守。」の、読み方とその意味として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① 「若くして丹青を逞しくせざれば、空房応に独り守るべし。」と読み、「若いときに絵画の腕を磨かなかつたなら、夫のいない部屋でひとりぼっちでいることになつただろう。」という意味。
- ② 「若くして丹青を逞しくせざれば、空房に応じて独り守るのみ。」と読み、「若いときに絵画の腕を磨かなかつたので、夫のいない部屋で来客の応対をしてひとり家を守っている。」という意味。
- ③ 「若し丹青を逞しくせざれば、空房応に独り守るべし。」と読み、「もしも絵画の腕をふるわなかつたなら、夫のいない部屋でひとりぼっちでいることになつただろう。」という意味。
- ④ 「若しくは丹青を逞しくせずして、空房に応じて独り守るのみ。」と読み、「あるいは絵画の腕を磨かなかつたせいなのか、夫のいない部屋で来客の応対をしてひとり家を守っている。」という意味。

(注)

- 1 糸蘿——ネナシカズラとサガリゴケ。草木にまといつく性質があることから、結婚の比喩として用いる。
- 2 雋不疑——前漢の人。大將軍がすすめた縁談を辞退した。
- 3 里語——人々の間で言いはやされた言葉。

⑤ 「丹青を遅くせずして、空房に独り守るべきが若し。」と読み、「絵画の腕を磨かないで、夫のいない部屋でひとりぼっちでいるようなものである。」という意味。

⑥ 「丹青を遅しくして、空房に应じて独り守るに若かず。」と読み、「絵画の腕をふるって、夫のいない部屋で来客の応対をしてひとり家を守っているほうがましである。」という意味。

| |
|-----|
| 解 答 |
| |